広報 とこみず

こうほう　とこみず

11月号

澄和137年11月1日発行

第1238号



表紙：断崖地区の崖下の岸。岸に上げた舟に、筵を掛けはじめました。軒先には干し柿が並びます。

特集

冬じたく

親洲の水路は、12月に凍ります。今月は舟を上げる岸、筵を出す家、氷を測る水路課を訪ねました。

今月の主な内容

特集　冬じたく	1〜2
苔舟醸造所の初しぼり	3
地上からお越しの方に道を聞かれたら	3
魚発研究所の見学会	3
秋の定例合議の結果	4
水路まつりのご報告	4

編集・発行　常水町役場 総務課

常水町上町一番地　電話 上町局808番

特集

冬じたく ― 舟を上げ、甕を出し、氷を待つ

12月に入ると、親洲の水路は順に凍り、歩いて渡れる氷路になります。凍ってからでは、舟は上げられません。町の冬じたくは、11月のうちに終わらせます。今月は、舟を上げる岸と、甕を出す家と、氷を測る水路課を訪ねました。

その一

舟を上げる



枕木に載せて莚を掛けた舟。舳先に家の名の札を下げます

舟は凍る前に岸へ上げ、枕木に載せて莚を掛けます。家の舟は家の前の岸に、岸のない家の舟は舟寄せの近くの置き場に並べます。

舟を上げたら、継ぎ手大工が舟底を見て回ります。傷んだ板は冬のあいだに直します。上げた舟には、家の名を書いた札を掛けてください。春になると、よく似た舟がよく似た場所に並んでいます。

その二

甕を窓辺へ



窓辺の冬越し甕。立てかけてあるのは水見札です

家の水路の金魚は、冬のあいだ冬越し甕で過ごします。甕は必ず窓辺に置いてください。金魚は日に当たって発電するので、冬は日が短いぶん、家の灯りがいっそう淡くなります。暗い場所に置くと、灯りはさらに落ちます。

甕の数と水見札の数が合っているかも、今月のうちに確かめてください。甕が足りない家には、水番課で甕をお貸しします。

その三

氷を待つ



岸に張りはじめた薄氷。開通の札は、まだ下がっていません

氷路は、水路課が氷の厚さを確かめてから開きます。開くまでは、凍っているように見えても歩かないでください。今年の手順は、10月の定例合議で次のとおり決まりました。

- 水路課 堀係が、朝の見回りで氷の厚さを測ります。
- 厚さが足りた区間から、「氷路 開通」の札を立てます。
- 歩けるのは札のある区間だけです。

天鏡原は冬も凍りません。天鏡原で仕事を続ける舟は、岸に上げずに崖下渡船場へつなぎます。

冬じたくの暦

時期	すること	問い合わせ
11月上旬	冬越し甕と水見札の数を確かめる	水番課 見回り係（内線241）
11月中旬〜下旬	舟を岸に上げて莚を掛ける	水路課 堀係（内線231）
11月末	水留神社の秋手水を冬じまい	観光課 行事係（内線281）
11月30日まで	屋台船を割り当ての係留場所へ	舟便課 係留係（内線271）
12月に入ってから	氷路を区間ごとに開通	水路課 堀係（内線231）

苔舟醸造所の初しぼり



地底湖のほとりの槽（ふね）。醪を袋に詰めて積み、重みで搾ります

天鏡原の苔舟島にある苔舟醸造所で、今季の初しぼりが出ます。島の洞窟の奥、碧く光る地底湖のほとりの蔵で搾った新酒です。

日	11月21日（土）から
数	720本。なくなりしだい終わります
場所	苔舟醸造所（島の崖下の舟着場から、苔の道を歩いて登ります）

この季節の天鏡原は、沖まで砂州が広く出ます。潮と風で舟が遅れることがありますので、時間に余裕をもってお出かけください。

問い合わせ　観光課 紀行係（内線281）

地上からお越しの方に道を聞かれたら



天鏡原の縁の籠の乗り場。荷物は風呂敷と竹の水筒に替えてから上がってこられます

今年、地上との行き来が137年ぶりに始まりました。定期便ではありません。浮洲が真上に来た日に、天鏡原の縁から昇降籠で上がってこられます。町を歩く地上の方を見かけたら、次のことを知っておいてください。

- 町の中で使えるのは常水のお金だけです。地上のお金を出されたら受け取らず、地上支所で両替するものだとお伝えください。
- 帰りの籠は、来たときと別の県に下りることがあります。籠の日を聞かれたら、役場へご案内ください。
- 地上の方は、水路の水を触ってみたくなるようです。家の水路の金魚を持ち上げられないよう、そっとお知らせください。
- 地上からの転入は、これまでどおり受け付けていません。

問い合わせ　観光課 紀行係（内線281）

魚発研究所の見学会



系統保存室（静室）の見学通路

魚発研究所の系統保存室（静室）をご案内します。静室は、電気を遮るために壁を厚くした土蔵です。町の発電魚の系統は、すべてここで保存しています。

日時	11月28日（土）午前10時から／午後2時から（各回約1時間）
定員	各回12人
申し込み	11月20日（金）までに、魚発課 系統係（内線251）へ

問い合わせ　魚発課 系統係（内線251）

今月の点検と運休

日	場所	内容
11月10日（火）	中町 第一環堀の閘門	定期点検のため午後1時〜3時は閉門
11月15日（日）	水重ケーブル（崖上駅〜崖下駅）	定期点検のため午前中は運休
当分の間	滝裏旧道（断崖地区）	落石のため通行止め

天鏡原航路の町営渡船「みずかがみ号」の秋季ダイヤ（1日5便）は11月30日までです。12月からの時刻は、月末にお知らせします。

秋の定例合議の結果

10月8日に役場で開いた秋の定例合議では、次のことが決まりました。

- **冬の氷路の開通の手順**　2ページのとおりです。
- **田当番の割り振り**　来年の春も、これまでの組み方を続けます。
- **天鏡原の澪の浚渫**　冬のあいだに、浅い区間から進めます。

問い合わせ　総務課 合議係（内線201）

水路まつりのご報告



まつりの翌朝の第二環堀

10月31日の第47回 常水町水路まつりは、晴れのなか予定どおり開かれました。灯籠は1,200個を配り、午後8時ごろに配り終えました。岸に流れ着いた灯籠は、水路課 堀係が受け取ります。

今月の空の道

月の初めは京都府の上空にいて、5日ごろから琵琶湖の北を通ります。半ばに福井から金沢へ進み、21日ごろに富山湾の上へ、月末には新潟県の上空に入る見込みです。だんだん北へ進み、雪の空が近づきます。

毎日の位置は、役場のホームページ「本日の浮遊場所」でご覧ください。

お知らせ

田当番の分け前　まだ受け取っていない方は、お住まいの町・村の蔵へ。

町の面積の表記　親洲を測り直し、親洲は直径約15.4 km・約185 km²、町の面積は約1,615 km²と改めました。

役場のホームページ　天鏡原「苔舟島と苔舟醸造所」のページを加えました。

連載　八つの高等学校 ①



中町継手高等学校の木工室。窓の下を水路が通ります

中町継手高等学校　町家をつないで増築を重ねた校舎で、伝統建築と木工、修復、建具を学びます。校舎の路地も階段も半地下室も、そのまま教材です。卒業制作では、町で実際に使うものを作ります。

来月から1校ずつご紹介します。

常水町役場

所在地　常水町上町一番地（環の湖のほとり、御内の入口に向かい合う大水門のそば）

電話　上町局 808番（代表）

開庁時間　平日 午前8時30分〜午後5時15分（土曜日・日曜日・祝日・年末年始は閉庁）

※常水町は創作上の架空自治体です。この広報紙は、創作プロジェクト「八百八水路」の一部として作成したものです。写真はAIで生成したものです。実在の地域・団体・人物とは関係ありません。